

CALIBRATION Service

校正サービスのご案内



圧力

P.10



温度

P.13



質量

P.14



気体流量

P.16



電気

P.18



JCSS

JCSS 0214

当社校正室は国際 MRA 対応 JCSS 認定事業者です。
JCSS0214 は当校正室の認定番号です。

企業理念

校正・計測の技術を追求し、 社会の発展に貢献します

弊社の企業理念は、1976年の創業以来一貫しています。

正確な計測や校正は、ものづくりに必要不可欠です。

発想やコンセプトがよくても、実際の計測データによる裏付けや校正に基づく正しい品質管理がなくては、良い製品の開発、製造を行うことはできません。

弊社は、計測や校正に関する海外の優れた計測機器や校正機器を提供するとともに、それらの機器の性能が十分に発揮され、お客様にご満足頂けるよう、技術的にバックアップいたします。海外製品を使用する上でありがちな修理や校正の際の長いダウンタイムは、輸入機器を採用する際の大きな障害となります。

弊社は、国産の機材と同じような感覚で輸入計測機器や校正機器をご利用頂くため、商社でありながら技術サービス拠点としてテクノロジーセンターを開設。修理から校正までほぼ全てのテクニカルサポートを国内で提供することが可能です。

Calibration Policy

弊社校正サービスグループは、計量法を遵守する上で必要となる専門知識を有する社員で構成され、社員は習得した計量技術と知識並びに校正等における公正と正確に留意し、計量標準供給制度による校正事業者としての校正の遂行によって、産業界の発展と安定に寄与いたします。



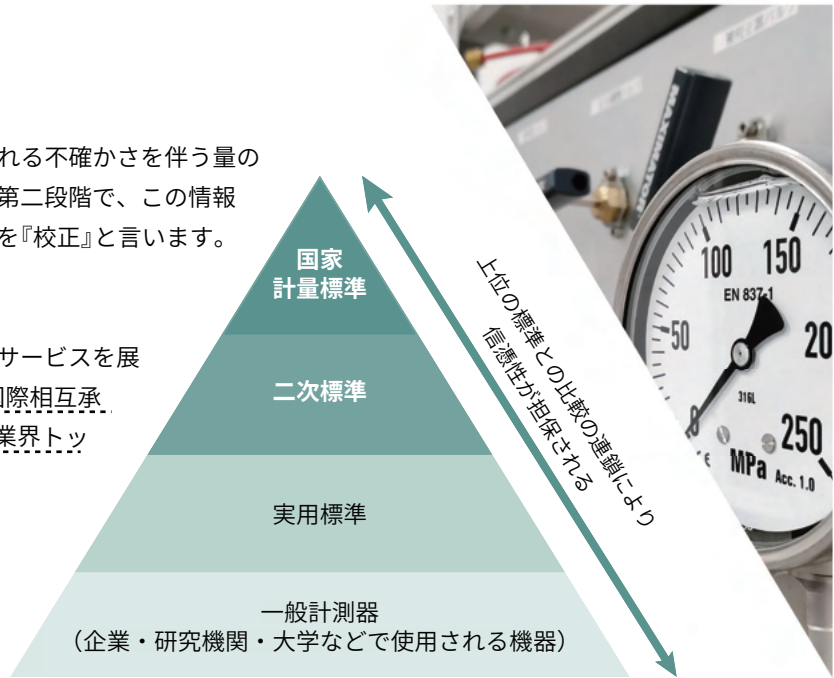
- | | |
|------------------------------------|---|
| 1. Quality | 顧客の要望と計量法、及び関連規格との関係を熟慮した校正をもって、公正な品質保証の証明を実行する |
| 2. Reliability | 手続きの透明性と責任体制の明確化により信頼性の高い校正を実施する |
| 3. World Standard | 国際的な整合性を重視し、世界的に通用する校正の実施に努める |
| 4. High Technology | 全社員は本品質マニュアルを順守し、校正技術水準の維持向上に努める |
| 5. Customer Confidentiality | 業務上知り得た顧客の機密を守る |

計測器の校正とは？

指定の条件下において、第一段階で、測定標準によって提供される不確かさを伴う量の値とそれに対応する指示値との不確かさを伴う関係を確立し、第二段階で、この情報を用いて指示値から測定結果を得るための関係を確立する操作を『校正』と言います。(JIS Z8103:2019)

当社では、圧力・質量・温度・気体流量・電気の5分野の校正サービスを展開。中でも、圧力・質量・温度・電気の分野では国際MRA(国際相互承認協定)対応のJCSS(校正事業者登録制度)認定事業者として業界トップレベルの校正品質を提供しています。

使用している実機が正しく測定できているかどうかを確認し、正確な測定結果を保証することで、品質管理や研究成果の信頼性向上に貢献します。



校正により発行される校正証明書類について

校正を行うと下記の書類が発行され、これらの書類により、その計測器の校正値が国家標準にトレーサブルであるということが証明されます。

校正証明書 Calibration Certificate

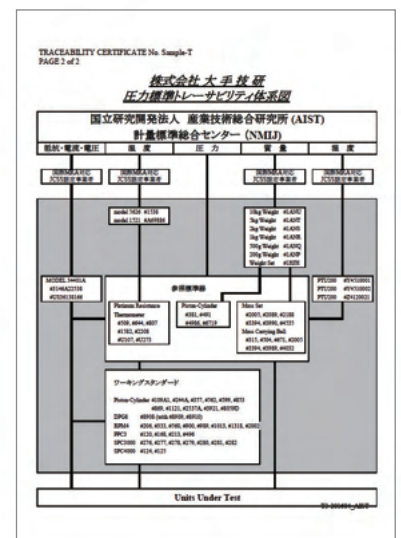
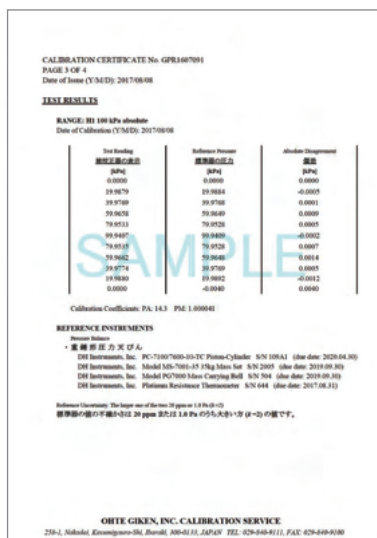
計測器が特定の標準に基づいて校正されたことが記録されています。証明書には校正日、使用された標準、測定結果、不確かさ、校正を実施した機関の情報などが含まれます。

成績書 Test Results

成績書には、校正に使用した標準器の情報や、校正結果、不確かさ、校正を行った結果(測定値)が記されています。

トレーサビリティ体系図 Traceability Chart

校正に使用した機器の経路を示したチャート図です。校正に使用した機器、さらにその機器の基準...と辿っていくと、最終的に国家標準まで辿り着くことになります。



※ JCSS 校正では校正証明書内にトレーサビリティについて記載され、校正証明書と成績書の2点が発行されます。

トレーサビリティについて

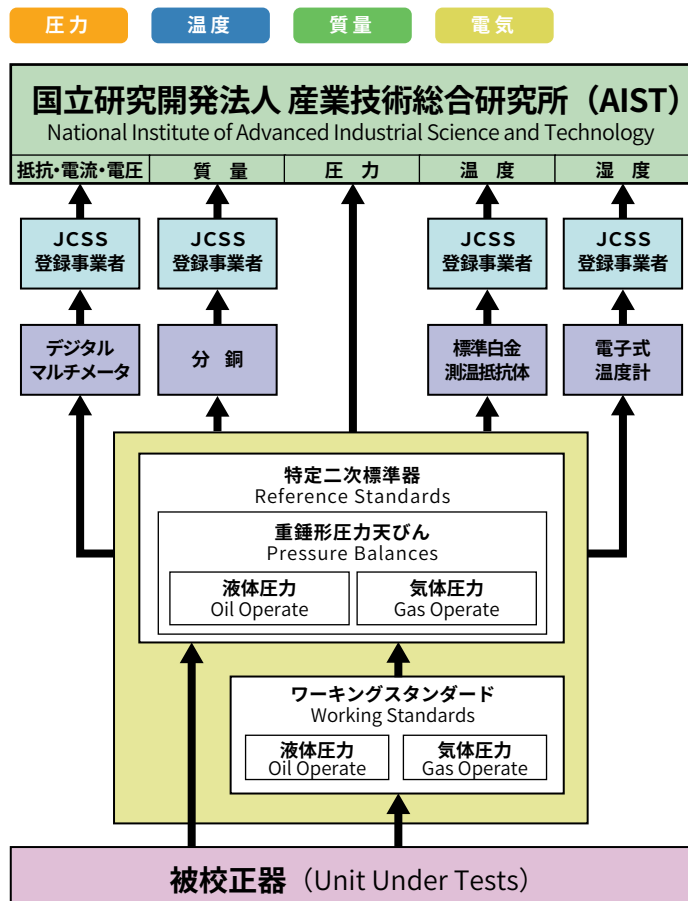
産業技術総合研究所 計量標準総合センター (AIST/NMIJ) に トレーサブルな JCSS 校正と、 米国 NIST にトレーサブルな一般校正サービスを提供

弊社は、圧力・質量・温度・気体流量・電気の5分野の校正を提供。圧力・質量・温度・電気の4分野では国際 MRA（国際相互承認協定）対応の JCSS 認定事業者です。圧力校正については国家標準と同等水準の特定二次標準器を有する第一階層の校正事業者として業界トップレベルの校正品質を提供しています。

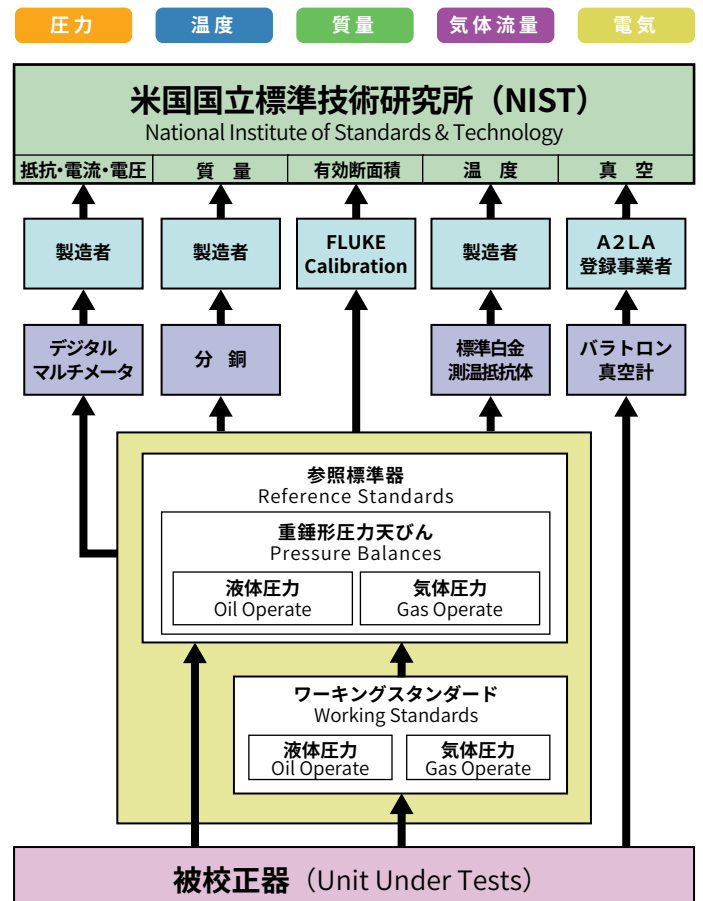
また、JCSS 校正では補えない測定範囲や対象外の機器の校正、アメリカ国立標準技術研究所 NIST（National Institute of Standard and Technology）へのトレースに対応した一般校正を提供し、多種多様なご要望にお応えできるサービスを提供しております。

トレーサビリティ体系

AIST/NMIJ トレーサビリティ体系図



米国 NIST トレーサビリティ体系図



JCSS 校正

国際 MRA 対応 JCSS 認定事業者

- 圧力
- 温度
- 質量
- 電気



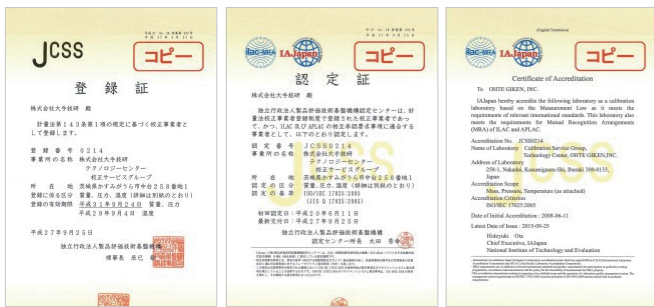
当社校正室は国際 MRA 対応 JCSS 認定事業者です。JCSS0214 は当校正室の認定番号です。

多国間で相互承認する国際 MRA に対応

日本のものづくりは、全世界が相手です。グローバルなものづくりが求められる中で、品質についても全世界が共通の枠組みの中で競い合うことが必要な時代です。製品を製造し供給する責任として、世界のどこの国においても品質に対して高い信頼を得なくてはなりません。

当社校正サービスグループは2008年6月に独立行政法人製品評価技術基盤機構が運営する校正事業者登録制度により計量法に基づくJCSS校正事業者として登録されました。また当社は国際MRA対応JCSS認定事業者としても認定を受けています。

当社が発行するJCSS認定シンボル付校正証明書は、ILAC、APACに加盟する複数の国において受入れ可能であり、国際間の取引にもご利用いただけます。



JCSS 登録証 ILAC-MRA IAJapan 認定書 (和文)・(英文)
英文証明書の発行が可能

ILAC：国際試験所認定協力機構
APAC：アジア太平洋認定協力機構
EA：欧州認定機構

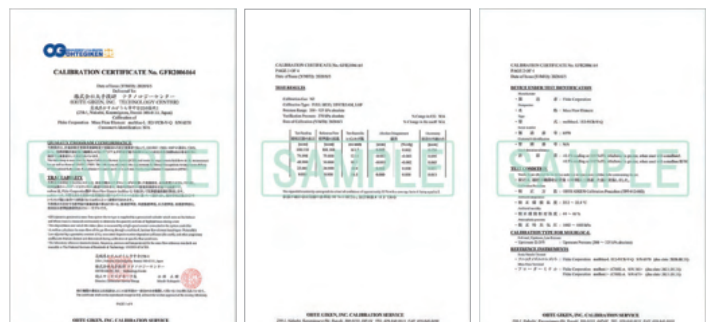
一般校正

世界に通用する一般校正サービス

- 圧力
- 温度
- 質量
- 気体流量
- 電気

JCSS 校正では補えない測定範囲や、対象外の機器の校正、米国 NIST トレースの対応などお客様のご要望にお応えします

- 校正事業者求められる国際規格 ISO/IEC 17025 に基づいて管理
- 圧力標準器群は、産業技術総合研究所／計量標準センター (AIST/NMIJ) にトレーサブル
- アメリカ国立標準技術研究所 NIST (National Institute of Standard and Technology) にもトレーサビリティの連鎖を確立し、インターナショナルに通用する校正証明書を発行
- 校正証明書やトレーサビリティ体系図は全て英文併記
- 海外顧客への対応、監査・査察にも対応可能な校正証明書



完璧な校正環境を実現する精密計測棟

国内随一の校正インフラ・施設

弊社の校正設備は、最高水準の能力を有しています。

校正を行うテクノロジーセンターは茨城県つくば市観音台の本社ビルに隣接し、校正専用の精密計測棟は、24時間常に温度と湿度が制御・管理・記録されています。

校正に特化して設計・建築された精密計測棟には様々な工夫や特殊構造が施され、高度な校正を実現するために完璧な環境条件を提供します。



圧力

質量

気体流量

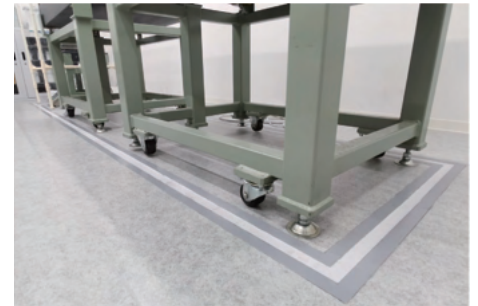
■ 振動を徹底的に排除する特殊基礎構造

圧力校正室では、重錘形圧力天びん設置の基礎と建物基礎とを完全に分離した特殊な基礎構造により震動を排除しています。



質量校正室でも、コンパレータを設置している部分の基礎と建物基礎とを完全に分離し、建物、空調設備、及びその他の機器振動を徹底的に排除。さらに、コンパレータを 350kg 以上の重量をもつ石定盤に設置しています。

また、対流の影響を極力排除するために風防ケースで覆い、後述の特殊空調と合わせて完璧なコンディションを構築。風防は静電気影響を排除するため、ステンレスとガラスで構成されています。



圧力

温度

質量

気体流量

電気

■ 24時間 365日 常時記録される環境計測

定期的に JCSS 校正され管理された環境計測機器で常時、温度、湿度、大気圧を計測し記録しています。各校正室にて温度 23°C(±1°C)・湿度 50% (±10%) の範囲内で、常時環境をコントロールしています。



圧力

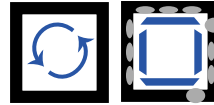
温度

質量

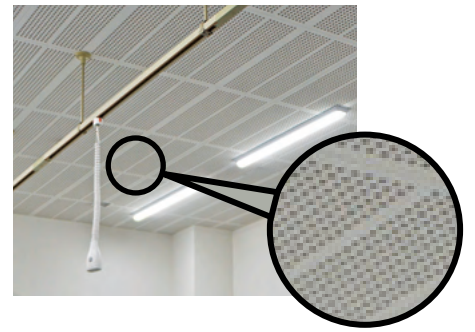
電気

■ 気流影響を排除する特殊空調

精密計測に大きな影響を及ぼす空調気流を極限まで抑えるため、天井に配置された小孔より染み出すように空気を送り、校正室全体の温度・湿度分布を均一化する特殊空調を設置。机上における気流速度を 0.1m/s 以下に抑えています。



空調の
気流抑制



圧力

温度

質量

電気

■ 室内の大気圧変化を最小限に抑える重量引戸の扉

精密計測棟は温度・湿度環境を安定化させるため、外窓のない鉄筋コンクリート造。全ての出入り口は引戸を採用し、ドア開閉による校正室内の圧力変化を最小限にします。



圧力

温度

質量

気体流量

■ 定期的な重力加速度の測定

重錘形圧力天びんの補正に不可欠な重力加速度を各校正室内の 2 ヶ所で測定。重力加速度は地殻変動や地下水脈の変化などによる影響を調査するため、地質調査会社にて定期的に測定しています。

気体流量

■ クリーンルーム CLASS10000 / ISO14644-1 CLASS 7

半導体関連機器や宇宙関連機器、医療関連機器などに使用されている気体流量計など高い清浄度を要求されるお客様にも安心して校正をご依頼頂けるよう、デバイスの清浄度を維持するため、気体流量校正室は CLASS10000 / CLASS 7 のクリーンルームとなっています。

一般産業用機器を校正する際には、クリーンルーム内に移動する前に外観洗浄を実施するなど、校正環境の清浄度を徹底して維持管理しています。



気体流量

■ 媒体温度安定化・室内圧安定化のための工夫

気体は温度による状態変化が大きいので、媒体の温度をできるだけ安定させる必要があります。弊社では、校正室内で配管長をできるだけ長く取ると共に、液式熱交換器を設置して、媒体温度を安定させています。

流量校正室内の室内圧を一定に保つための工夫として室内出口扉付近には、圧力ダンパーが設置されています。出口扉を開けたと同時に圧力ダンパーが閉じ、出口扉を閉めると圧力ダンパーが開きます。これは室内の圧力を清浄度の高い順に調整し、校正室の出入口扉の開閉時において、室内圧の極端な変動を防ぐための装置（ダンパー）です。

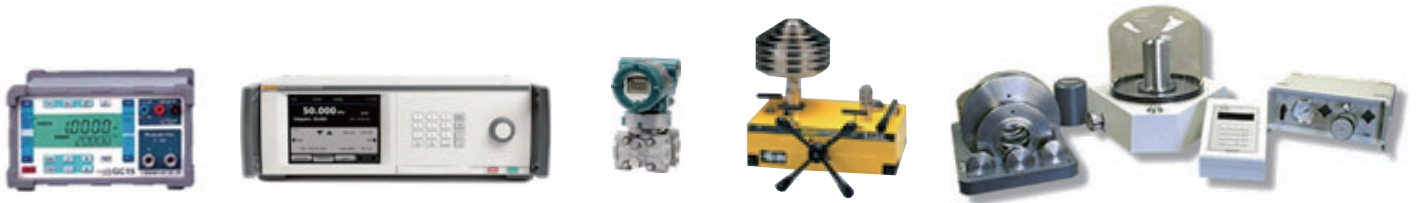


当社校正サービスの特長

メーカーを問わず国内外のあらゆる測定機器を校正

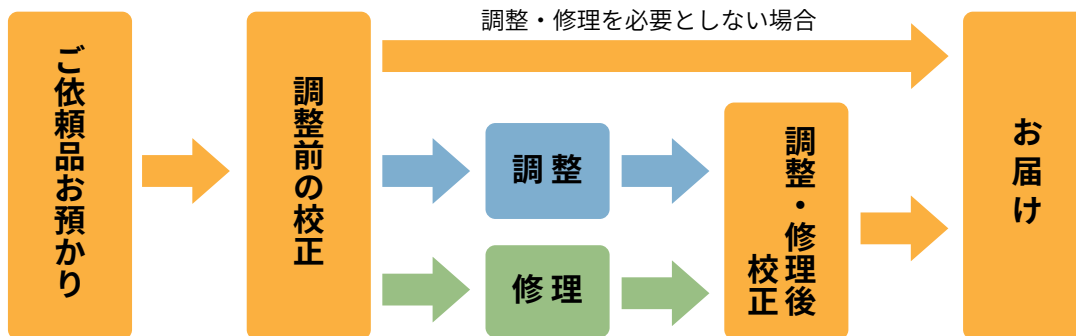
弊社は、メーカー系列を持たない独立系の校正事業者として、メーカーを問わずあらゆる圧力機器の校正を承っております。

特に海外の圧力機器は高性能なものが多く、再校正のために海外メーカーに返送するケースが多く見受けられます。弊社では、それらの高精度な海外製品にも対応。マニュアルに調整方法の記載がある場合は、調整も含めてメーカーと同等以上の品質で校正、調整を承っております。国内製品につきましても、メーカーを問わず国内トップレベルの校正品質を短納期で承っております。



校正だけでなく調整や修理を含むワンストップ対応

校正ご依頼品が要求する精度や不確かさを満たさない場合、弊社では技術サービス部門にて機器の調整サービスを提供しております。また、修理が必要な場合にも、ご希望によりお客様に代わり修理・作業手配が可能。調整や修理を含む校正をワンストップで提供します。



校正シール・個別カルテとデータベースによる徹底したデータ管理

一般校正では校正日と推奨する次回校正日を記載した校正管理用シールを校正証明書に添付しています。校正依頼品に貼り付けるなどして、校正周期の管理にお役立てください。当社ではお預かりした被校正器の情報をデータベース化すると共に、1台毎にカルテを作成し、長期にわたる履歴管理を行っています。

多彩なオプションサービス

出張校正・引取り・配送サービス

重錘形圧力天びんや液柱マノメータなど移動が困難な機材の場合、標準機器を現場に持参して校正作業を実施するオンサイト・キャリブレーション・サービス（現地校正）を実施しています。

また、移動は可能だが混載貨物での輸送が困難な機器の場合には、当社指定の運送業者による引取りサービスや、サービスカーによる搬出搬入サービスを承っております。



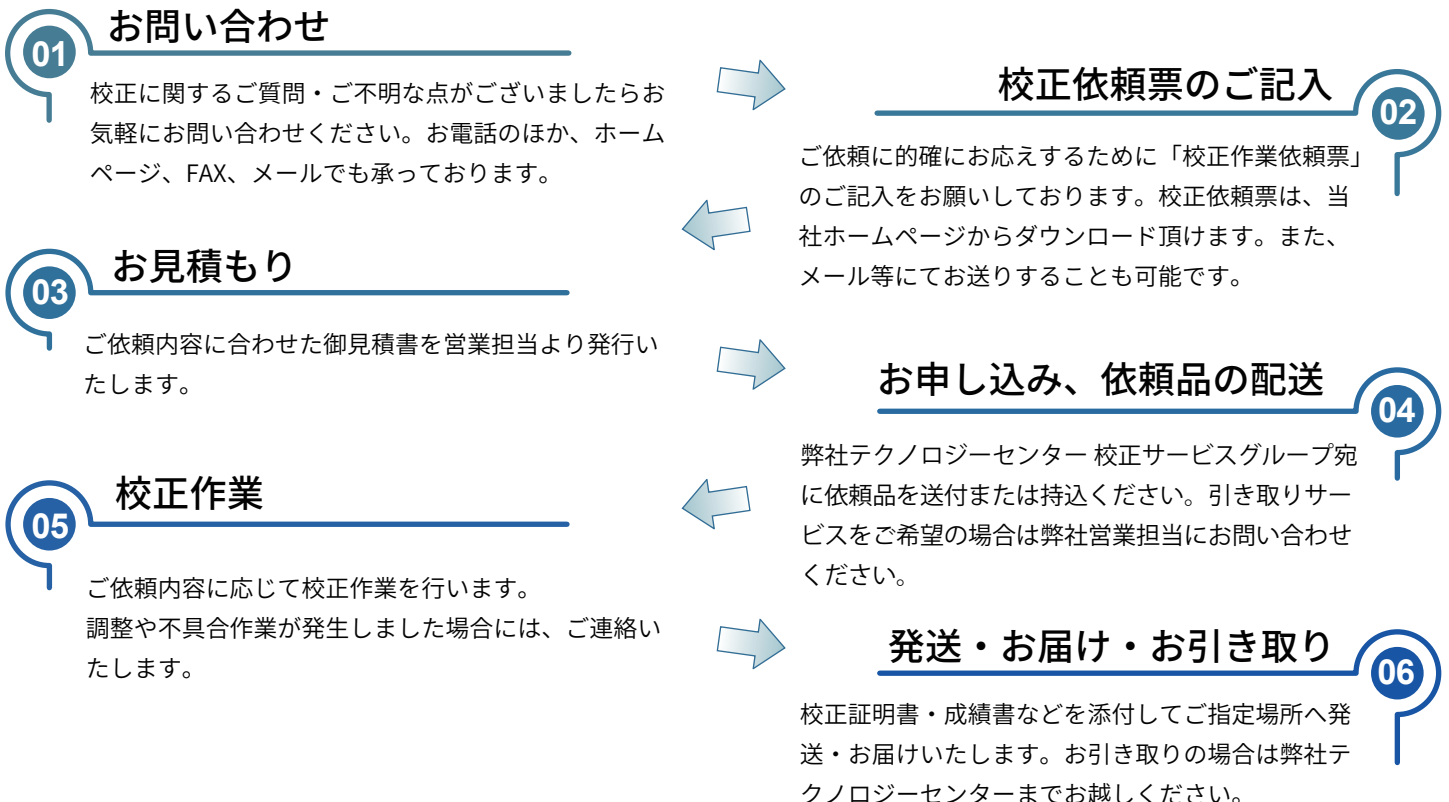
年間契約・一括契約

お客様施設内でご使用の全ての校正対象機器を一括して校正ご依頼を頂く場合や、年間を通して一定の数量をご依頼頂く場合などは、お打ち合わせの上、既定の校正費用よりお得にお見積りいたします。

校正対象機器管理代行サービス

お客様施設内でご使用の校正対象機器について、機材の登録・抹消・精度管理・校正周期管理など、弊社がその管理の全てを代行いたします。品質管理業務の軽減にお役立てください。

ご依頼から納品までの流れについて



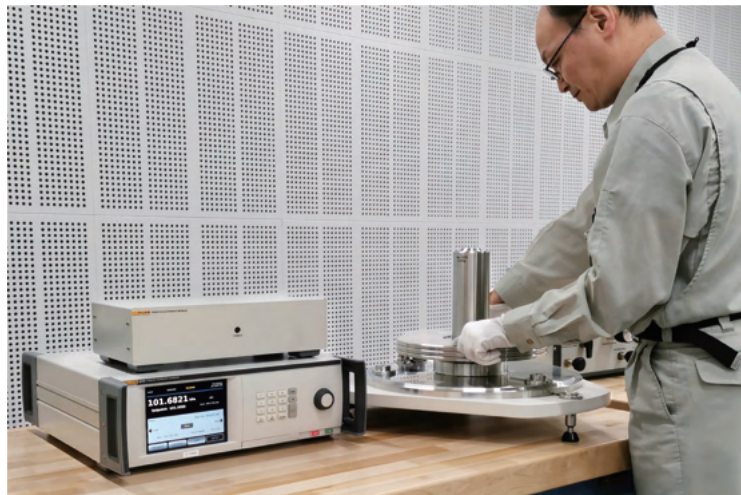
圧力校正サービス

JCSS 校正対応

NIST 校正対応

国内随一の圧力校正設備

国家標準と同等水準の特定二次標準器を含む標準器群を所有



弊社の圧力校正サービスグループは、産業技術総合研究所 (AIST) 計量標準総合センター (NMIJ) において直接値付けされた特定二次標準器を有する他、世界の標準供給機関が国の標準として使用している圧力標準器と同じグレードの機材を数多く所有しています。

また、国内随一の圧力校正能力を提供するため、国内唯一の圧力標準機器を多数有しています。



重錘形圧力天びんのワンストップ校正サービス

ハイエンドの重錘形圧力天びんを校正する場合、圧力対圧力の校正を行うほか、有効断面積の算出には質量の校正も必要です。また、一般的にハイエンドの重錘形圧力天びんは、ピストン温度、環境温度などの測定も行いますので、それらの温度計測デバイスの校正も必要です。これらの校正を別々に専門の校正機関に依頼をすると、費用や時間などの追加コストがかかり、また管理も大変です。

弊社は、これら3つの要素全てについてILAC-MRA対応のJCSS校正事業者として認定・登録されていますので、ワンストップで承ることができます。

一括手続きで必要とする全ての校正を承る事ができますので、校正にかかる時間と費用を大幅に軽減する事ができます。



当社校正室は国際MRA対応JCSS認定事業者です。
JCSS0214は当校正室の認定番号です。

ONE STOP CALIBRATION

JCSS 校正 | 校正範囲と校正測定能力

2024 年 6 月時点

重錘形圧力天びん

校正測定能力（信頼の水準約 95%）

気体	ゲージ圧力	10 kPa 以上 350 kPa 以下	0.0035% 又は 1.0 Pa のうち大きい方の値
		350 kPa 超 7000 kPa 以下	0.0037% 又は 19 Pa のうち大きい方の値
液体	ゲージ圧力	0.1 MPa 以上 100 MPa 以下	0.0060% 又は 0.60 kPa のうち大きい方の値
		100 MPa 超 200 MPa 以下	0.0070%
		200 MPa 超 350 MPa 以下	0.010%
		350 MPa 超 400 MPa 以下	0.013%

圧力計（デジタル圧力計 / 圧力変換器）

校正測定能力（信頼の水準約 95%）

気体	絶対圧力	10 kPa 以上 7000 kPa 以下	0.0040% 又は 4.0 Pa のうち大きい方の値
	ゲージ圧力	-90 kPa 以上 -10 kPa 以下	10 Pa
液体		絶対圧力	0.2 MPa 以上 100 MPa 以下
	100 MPa 超 200 MPa 以下		0.0070%
	200 MPa 超 350 MPa 以下		0.010%
	350 MPa 超 400 MPa 以下		0.013%
	ゲージ圧力	0.1 MPa 以上 100 MPa 以下	0.0060% 又は 0.60 kPa のうち大きい方の値
		100 MPa 超 200 MPa 以下	0.0070%
		200 MPa 超 350 MPa 以下	0.010%
		350 MPa 超 400 MPa 以下	0.013%

圧力計（機械式圧力計）

校正測定能力（信頼の水準約 95%）

気体	ゲージ圧力	-90 kPa 以上 -10 kPa 以下	100 Pa
		10 kPa 以上 7000 kPa 以下	最大圧力の 0.10%
液体	ゲージ圧力	0.1 MPa 以上 200 MPa 以下	最大圧力の 0.10%

圧力校正サービス

一般校正 | 校正範囲

校正対象：重錘形圧力天びん、液柱形マンメータ、液柱式圧力計、デジタル圧力計、機械式圧力計、圧力校正器、圧力コントローラ、圧力センサ、圧力伝送器、大気圧計、負圧計（真空計）など

気体	絶対圧力	100 Pa 以上 70 MPa 以下
	ゲージ圧力	-95 kPa 以上 -10 kPa 以下、 100 Pa 以上 100 MPa 以下
液体	絶対圧力	200 kPa 以上 500 MPa 以下
	ゲージ圧力	100 kPa 以上 500 MPa 以下

国内唯一の設備の数々

■ 有効断面積 20cm² (Φ50) を誇る重錘形圧力天びん PG9607

重錘形圧力天びんは、ピストン・シリンダの有効断面積とそこに印加される力によって圧力を定義します。同じ力を印加した場合、有効断面積が大きいほど定義できる圧力値は小さくなります。

PG9607 は重錘形圧力天びんとして最大の 20cm² の有効断面積を持ち、2.5kPa という微小圧力を安定して定義できる唯一の重錘形圧力天びんです。日本国内では産業技術総合研究所計量標準総合センター (NMIJ) が 2 台を有する他、民間では弊社のみ有しています。



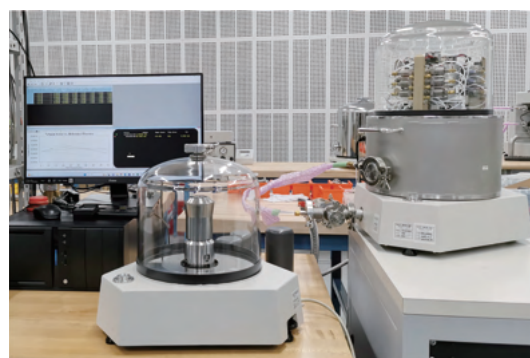
■ 唯一無二。フォースバランス形無回転ピストンゲージ FPG8601

参照用標準器として広く用いられる一般的な重錘形圧力天びんは、ピストン・シリンダに印加する力を重錘（おもり）によって定義します。しかし、ピストン自身が質量を持っているため、定義することができる最小の圧力値はピストンの自重で決定され、それ以下の圧力範囲を測定することは特殊な測定方法を用いない限りできません。FPG8601 は、ピストン・シリンダと電子天びんを組み合わせることでピストンの自重をキャンセルすることができるため、事実上 '0' 圧力から測定を開始することが可能。国内では弊社のみが所有しています。



均一な校正品質の提供と校正の確実性を向上する自動化技術

日々の校正作業を継続する中で、ヒューマンエラーやオペレータの作業のバラツキを可能な限り少なくすることは、あらゆる校正事業者にとって永遠の課題です。この課題を克服するために、弊社は校正システムの自動化に取り組んでいます。気体用重錘形圧力天びん PG7000 シリーズでは自動重錘加除装置を装備し、自動圧力コントローラとソフトウェアとの連携により、全自動化を実現しています。



温度校正サービス



JCSS 校正対応

NIST 校正対応



当社校正室は国際 MRA 対応 JCSS 認定事業者です。
JCSS0214 は当校正室の認定番号です。

JCSS 校正 | 校正範囲と校正測定能力

2024 年 6 月時点

接触式温度計

校正測定能力 (信頼の水準約 95%)

指示計器付温度計 (比較校正法)	0°C 以上 100°C 以下	0.050K
------------------	-----------------	--------

一般校正 | 校正範囲と校正測定能力

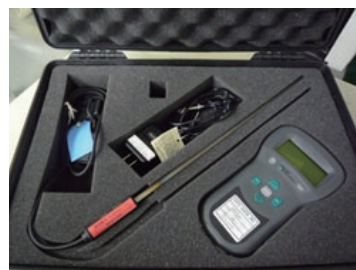
校正対象：指示計器付温度計、熱電対、測温抵抗体、ガラス温度計、サーミスタなど

校正測定能力 (信頼の水準約 95%)

指示計器付温度計、その他	-40°C 以上 600°C 以下	0.050K
--------------	-------------------	--------

最高の温度校正設備により 不確かさの小さな校正を実現

弊社は参照用標準器となる基準測温抵抗体を 2 セット所有しており、それぞれにおいて 0°C ~ 100°C の範囲で、産業技術総合研究所計量標準総合センター (AIST / NMIJ) にトレーサブルな JCSS 校正と、米国 NIST (National Institute of Standard and Technology) にトレーサブルな一般校正を提供しています。



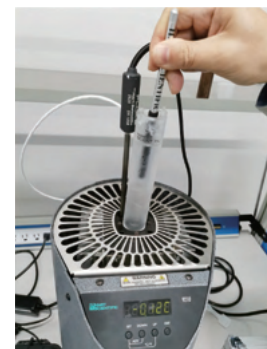
温度校正設備は、旧 HEART SCIENTIFIC (現 FLUKE) 社製の水の三重点セル、標準白金抵抗体とドライウェル、温度槽で構成されており、標準白金抵抗体は、NMIJ トレーサブル用と NIST トレーサブル用の 2 本を有していますので、クロスチェックによる確認が可能です。

水の三重点セルによる基準温度の補正

弊社では、基準測温抵抗体の基準温度補正のために、水の三重点セルを用いています。

水の三重点セルとは、真空ガラス管に充填された Vienna 標準平均海水が固相、液相、気相の三相が共存する熱力学的平衡状態気体 (三重点) となる状態を特定するもので、このとき、水の温度は 0.01°C (273.16K) になります。

この特性により、基準測温抵抗体の基準値を補正します。



質量校正サービス

JCSS 校正対応

NIST 校正対応

高度な分量・倍量法による 不確かさ管理

弊社の質量校正サービスは、第一階層の校正事業者と同様、一対等量比較法ならびに分量・倍量法による高度な不確かさ管理を行っています。OIML (INTERNATIONAL Organization of Legal Metrology) R111-1 で規定する F2、M1 クラスの分銅をはじめ、重錘形圧力天びん用の重錘 (おもり) の校正など、幅広い質量校正を提供しています。

重錘形圧力天びんの校正に合わせ、重錘セットを同時に校正することができますので、重錘形圧力天びんのワンストップ校正を承ることができます。



当社校正室は国際 MRA 対応 JCSS 認定事業者です。
JCSS0214 は当校正室の認定番号です。

JCSS 校正 | 校正範囲と校正測定能力

2024 年 6 月時点

分銅

校正測定能力 (協定質量の校正) (信頼の水準約 95%)

分銅	1 mg, 2 mg, 5 mg	0.005 mg
	10 mg, 20 mg, 50 mg	0.005 mg
	100 mg, 200 mg, 500 mg	0.010 mg
	1 g	0.050 mg
	2 g	0.050 mg
	5 g	0.15 mg
	10 g	0.15 mg
	20 g	0.15 mg
	50 g	0.15 mg
	100 g	0.15 mg
	200 g	0.20 mg
	500 g	2.0 mg
	1 kg	2.0 mg
	2 kg	3.0 mg
5 kg	10 mg	
10 kg	25 mg	

JCSS 校正 | 校正範囲と校正測定能力

2024年6月時点

おもり

校正測定能力（協定質量の校正）（信頼の水準約95%）

おもり	1 mg 以上	2 g 以下	0.05 mg
	2 g 超	200 g 以下	0.5 mg
	200 g 超	1kg 以下	4.0 mg
	1 kg 超	2kg 以下	6.0 mg
	2 kg 超	5kg 以下	15 mg
	5 kg 超	15kg 以下	50 mg

一般校正 | 校正範囲

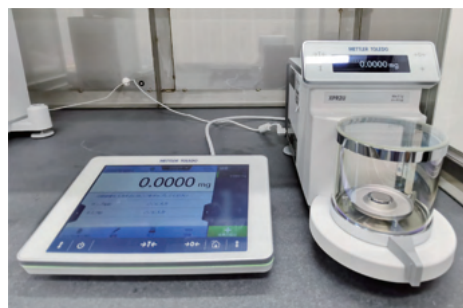
校正対象：分銅 (F2、M1 クラス)・おもり

分銅	1 mg, 2 mg, 5 mg, 10 mg, 20 mg, 50 mg, 100 mg, 200 mg, 500 mg,
	1 g, 2 g, 5 g, 10 g, 20 g, 50 g, 100 g, 200 g, 500 g,
	1 kg, 2 kg, 5 kg, 10 kg
おもり	1mg ~ 15kg

当社質量校正サービスの特長

世界最高水準の マスコンパレータ

秤量 15kg、5kg、2kg、200g、2g の 5 台のマスコンパレータを所有しています。これらのマスコンパレータは、1ppm (100 万分の 1) 以下の分解能をもつ業界最高水準の性能を有するものです。



標準おもり

弊社では、FLUKE Calibration 社並びに DH 社の重錘形圧力天びんに用いられている重錘（おもり）と同一形状の標準おもりを有し、両社の重錘については、一対当量比較法により最小の不確かさで校正を行うことができます。



OIML E2 標準分銅

常用参照標準分銅として、日本及び米国の国家標準へのトレーサビリティが明確な OIML E2 分銅を系統ごとに 1 組ずつ所有しています。校正周期は 3 年です。



気体流量校正サービス

NIST 校正対応

6種類的气体に対応

窒素、乾燥空気、ヘリウム、水素、アルゴン、六フッ化硫黄の一般的にメジャーな6種類的气体に対応しています。流量範囲はそれぞれのガスによって異なりますが、例えば窒素ガスの場合、1sccm から最大100slm と比較的小さな流量範囲の気体流量校正を提供しています。

また、弊社テクノロジーセンターは Fluke Calibration 社の認定サービスプロバイダの指定を受けており、同社製のラミナフローエレメント molbloc-L の校正や調整も提供しています。



一般校正 | 校正範囲

校正対象：面積式流量計・石鹼膜流量計・湿式ガスメータ・気体流量計
マスフローメータ・マスフローコントローラなど

流量レンジ

ガス種	流量レンジ	
	窒素	1 sccm
空気	1 sccm	100 slm
ヘリウム	10 sccm	100 slm
水素	20 sccm	200 slm
アルゴン	5 sccm	80 slm
SF ₆ 六フッ化硫黄	1 sccm	6.2 slm

最高の校正能力を提供する気体流量専用校正設備

■ クリーンルーム CLASS 10000 / CLASS 7

半導体関連機器や宇宙関連機器、医療関連機器などに使用されている気体流量計など高い清浄度を要求されるお客様にも安心して校正をご依頼頂けるよう、デバイスの清浄度を維持するため、気体流量校正室は CLASS 10000 / CLASS 7 のクリーンルームとなっています。

一般産業用機器を校正する際には、クリーンルーム内に移動する前に外観洗浄を実施するなど、校正環境の清浄度を徹底して維持管理しています。



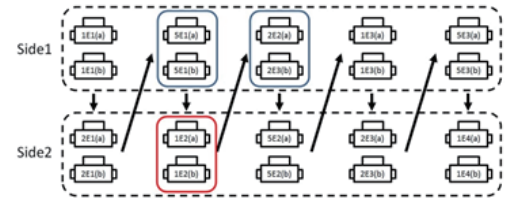
■ 正確な校正を実施するために重要な環境計測

クリーンルームの清浄度を含む適切な測定環境を維持するために24時間の空調管理とパーティクルモニタリングを実施しています。



2組の常用標準器群を用いた独自のキャリブレーションチェーン

弊社は、2組の常用標準器群を有しており、それぞれの標準器の値をクロスチェックする独自のキャリブレーションチェーンを実現。定期的に参照用標準器の比較を実施することで、常用標準器の維持・管理を行っています。

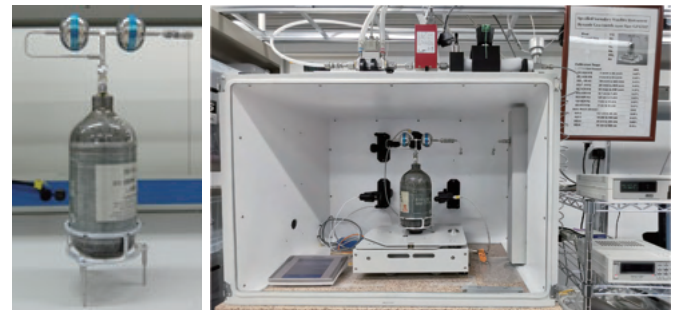


グラビメトリック式の参照用標準器とラミナフロー式の常用標準器

弊社の参照用標準器は、気体流量の定義方法として現在主流となっているグラビメトリック法（重量法）に基づいており、本質的な質量流量を定義することができます。

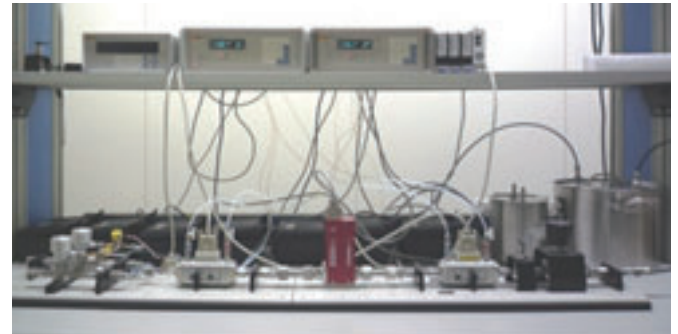
■ 参照用標準器 GFS

GFS (Dynamic gravimetric mass flow system) は、充填ガス消費式のグラビメトリック式質量流量標準器で、ボトルにチャージされた気体の質量を測定した上で、時々刻々消費される気体の質量を測定して質量流量を定義します。



■ 常用標準器 molbox/molbloc システム

molbox/molbloc システムはラミナフロー（層流式）エレメントを用いた常用標準器で、参照用標準器とサクセシブアディション法（倍量法）によって窒素の場合 1sccm ~ 100slm の範囲の校正を実施することができます。

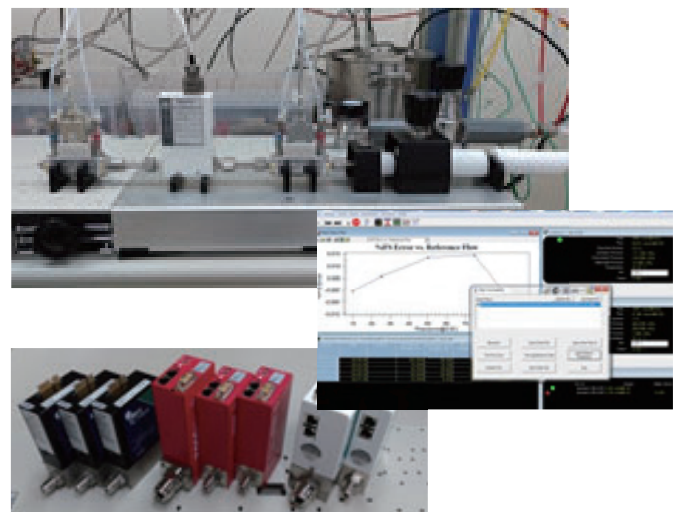


■ 均一な校正品質の提供と 校正の確実性を向上する自動化技術

校正作業の測定のバラツキを排除し、作業手順や補正の誤りなどのヒューマンエラーを徹底的に排除するために校正システムの自動化に取り組んでいます。

気体流量校正システム molbox/molbloc システムにはマスフローコントローラを装備し、ソフトウェアとの連携により、全自動化を実現しています。

また、常用標準器として、マスフローメータやマスフローコントローラを積極的に導入しています。



電気校正サービス

JCSS 校正対応

NIST 校正対応



当社校正室は国際 MRA 対応 JCSS 認定事業者です。
JCSS0214 は当校正室の認定番号です。

多様な用途の電気計測器に対応



近年は、複合機能を持たせた計測器が多数販売されています。例えば、圧力校正器に電圧計や電流計測機能が付いたものなどがあり、弊社ではそれらをすべて一括に校正できます。

当社では電気計測器（直流電圧計測器、直流電流計測器、抵抗計測器、温度表示器）、時間計測器（周波数計測器）等様々な測定量における高精度な標準器から現場計測器に至るまで校正が可能。電気校正は、日々校正範囲を拡大中です。一般校正においては右記の校正範囲を超えたレンジや、交流校正器等も一部可能となる場合もありますので、ご相談ください。

JCSS 校正 | 校正範囲と校正測定能力

2024 年 6 月時点

直流・低周波測定器等

校正手法の区分の呼称	種類	校正範囲	校正測定能力 ※ 詳細はお問い合わせください
直流・低周波測定器等	直流電圧測定装置	10 mV ~ 100 V	代表値：100 mV (不確かさ 3.3 μV) 1 V (不確かさ 7.2 μV) 10 V (不確かさ 49 μV)
	直流電流測定装置	100 μA ~ 100 mA	代表値：1 mA (不確かさ 0.043 μA) 10 mA (不確かさ 0.40 μA) 100 mA (不確かさ 9.8 μA)
	直流抵抗測定装置	10 Ω ~ 100 MΩ	代表値：10 Ω (不確かさ 0.26 mΩ) 1 kΩ (不確かさ 14 mΩ) 100 kΩ (不確かさ 1.5 Ω)
	直流電圧発生装置	10 mV ~ 100 V	代表値：100 mV (不確かさ 3.5 μV) 1 V (不確かさ 9.6 μV) 10 V (不確かさ 87 μV)
	直流電流発生装置	100 μA ~ 100 mA	代表値：1 mA (不確かさ 51 nA) 10 mA (不確かさ 0.51 μA) 100 mA (不確かさ 8.1 μA)
	直流抵抗器	10 Ω ~ 4 kΩ 10 kΩ, 100 kΩ, 1 MΩ, 10 MΩ, 100 MΩ	代表値：10 Ω (不確かさ 0.41 mΩ) 1 kΩ (不確かさ 22 mΩ) 100 kΩ (不確かさ 2.2 Ω)

一般校正 | 校正範囲

校正対象：電気計測器（電圧，電流，抵抗等）、時間計測器（周波数）

直流・低周波 測定器	直流電圧測定装置	10 mV ~ 100 V
	直流電流測定装置	100 μ A ~ 1 A
	直流抵抗測定装置	1 Ω ~ 100 M Ω
	直流電圧発生装置	10 mV ~ 100 V
	直流電流発生装置	100 μ A ~ 1 A
	直流抵抗器	10 Ω ~ 4 k Ω , 10 k Ω , 100 k Ω , 1 M Ω , 10 M Ω , 100 M Ω
	温度表示器	測温抵抗体：-200 $^{\circ}$ C ~ 800 $^{\circ}$ C (10 Ω ~ 1 k Ω) 熱電対：-200 $^{\circ}$ C ~ 4100 $^{\circ}$ C (-10 mV ~ 100 mV)
	温度表示器測定装置	
時間・周波数 測定器	周波数発生器	10 Hz ~ 100 kHz
	周波数測定装置	10 Hz ~ 100 kHz

業界最高水準の標準器群

マルチファンクション校正器のスタンダード Fluke 5730A を始め、高性能 DMM の標準器として Keysight 3458A を完備。最大 8.5 桁の測定分解能を有しており、業界最高水準の校正を可能にしています。

この他にも数々の標準器を揃えています。

- ・マルチファンクション校正器：Fluke 5730A
- ・高精度マルチメーター：Keysight 3458A
- ・高精度プロセス校正器：Fluke 7526A
- ・ファンクション／任意波形発生器：Agilent 33521A
- ・ユニバーサル周波数カウンター／タイマー：Keysight 53230A



Fluke 7526A



Fluke 5730A



Keysight 3458A



Agilent 33521A



Keysight 53230A

校正サービスに関するお問い合わせは

株式会社大手技研

本社：〒305-0856 茨城県つくば市観音台1-25-12
TEL: **029-839-0777** FAX: 029-839-2288

テクノロジーセンター：〒305-0856 茨城県つくば市観音台1-25-12
TEL: 029-839-0778 FAX: 029-839-4488

関西営業所：〒673-0016 兵庫県明石市松の内2-1-8 50ヤングビル6F
TEL: **078-926-1178** FAX: 078-926-1180

ホームページ <https://www.ohtegiken.co.jp>

E-Mail main.sales@ohtegiken.co.jp

